

## 永平寺と琵琶湖周辺の史跡を訪ねる歌紀行（1）

長崎史談会名誉会長 宮川 雅一

平成22年11月6日(上)～8日(月)、長崎史談会主催の永平寺と琵琶湖周辺の史跡を訪ねる旅に参加する。

6日午前6時馬町バス停留所に集合、西脇氏の乗用車に広瀬氏、大田氏とともに便乗して、大村空港に向かう。約30分で到着、総勢30人が満員の08:05発ANA162便に乗り込む。

1、**去年の身延詣でに 引き続き 仏求めて永平寺へ飛ぶ**

四国上空、大阪湾上を経て、近くまで市街地が迫る巨大な仁徳天皇陵や大阪城が見えたと思うまもなく、定刻09:15伊丹空港に着陸。これから3日間お世話になる貸切バスの運転手の出迎へと案内で、バスに乗り込む。つい昨年身延行きでお付き合いした東北弁を使う不思議な運転手コンビを想い出し、あらためてみんなで大笑い。

2、**三日間 命預ける ドライバー東北弁は 聞こえず安堵**

午前10時前、宇治の黄檗山万福寺に向けて出発。途中高速道路を通るが、両側の遮音壁が高く折角の京都の景色が見えず、味気ない道中。

3、**鳥羽伏見 あたり通ると 思えども 遣音の壁が 景色遮る**

一般道路に下りて、ようやく宇治の町並みや緑の丘陵が見えてきて、原田会長から万福寺の大雄宝殿の位置を教えてもらう。さすがに遠くから眺めても大きな建物である。

4、**宇治の町お茶の畑の続く先万福寺の屋根 遠目にも見ゆ**

思えば、黄檗山万福寺は、今から45年も前の昭和40年(1965)1月、滋賀県庁に婦人児童課長として勤務していたと

き、重症心身障害児の父といわれる近江学園の系賀一雄園長先生をはじめ県下の児童福祉施設の施設長さん方と共に、大津市石山にある児童養護施設「湘南学園」理事長で黄葉宗宗務総長であった中村弘道師が前年管長に昇格されたのをお祝いに訪れ、普茶料理の接待を受け、『満』と書かれた色紙を戴いた。

5、**滋賀県の新米課長で訪れて 老いてまた見る 黄葉の寺**

入り口から少し離れた駐車場で降り、風情のある路地を少し歩く。途中、5円玉(種銭)を自由に持ち帰っていいというみみづく地藏尊を祀る無人の地藏堂(聖林院長岡山中央寺)があった。1個戴き、お奏銭箱に百円玉を入れて開運を祈ってきた。効き目があるかどうか。

6、**五円玉 自由にどうぞの 地藏堂 百円入れて 開運を祈る**

さすが黄檗宗の大本山、規模も建物もみんな立派で大きい。長崎の黄桑寺院では唯一万寿山聖福寺にだけある天王殿を上げげと眺める。中央表に黄金色の弥勒菩薩(布袋さん)像、その裏に専駄天像があるのは聖福寺と確かに同じ。このほかここでは、四方に四天王像が安置されていた。

7、**長崎の聖福寺もある 天王殿万福寺には四天王像**

近くで見る大雄宝殿は、主ことに大きく、しかもチーク材で出来、均整の取れた美しい建物である。広々とした内部に入ると、釈迦三尊像と中国人彫刻家の苑道生作十八羅漢像が安置されていて、心落ち着く空間が広がっている。(次号へ続く)



黄檗山万福寺大雄宝殿前にて(2010/11/6)